



「誰にでも分かる刑法総論」

佐々木知子（昭53法）著

（立花書房 1,905円＋税）

刑法を易しく解説するのは相当な難事である。一工夫も二工夫も要すると言った方が正確かもしれない。

著者は検事を15年、その後参議院議員を1期（6年）務め、議員立法にも携わる。現在は弁護士、傍ら大学教授や家庭裁判所の調停委員も務める。このような幅広い経験こそが本書を生み出す素地となったに違いない。加えて著者の他者への思いやりや配慮を欠かさない人柄も関係しているかもしれない。刑法は民法や商法のように身近な法律でな

く、一般には縁の薄い法律である。そのため著者は、まず法体系の中での刑法を説明し、次いで個別のケースについてはイラストや具体例を挙げ、実務上の数字を挙げるなどの創意工夫を凝らして、実に分かりやすい刑法の解説書に仕上げている。

神戸大学の法学部の学生として初めて刑法の講義を聴いた時のことを私は今でも思い出す。授業でいきなり「構成要件」という言葉が飛び出し、私は理解出来ず、いたく打ちひしがれてしまったのである。もしあの時このような本があったなら、どんなに助かったことだろうか。本書を見ると「構成要件とは何か」に始まって「構成要件の機能」、「構成要件の要素」と続き、普段なじみのない「構成要件」なる概念を自然に理解できるように工夫してある。まさに「誰にでも分かる刑法総論」である。本書を読むと、顔を輝かせて佐々木知子教授の講義に聴き入る学生の顔が見えるような気がする。

「一般教養としての刑法」とも言えそうな本書は、一般人にも一読をお勧めしたい。特に昨今話題になっている裁判員制度について

の解説は懇切、丁寧で他の追隨を許さない。

抜山 映子（昭34法修）

「本と凌霜人」への掲載の可否は、編集委員会の意見および出版社や定価表示の有無などで判断します。また、著者・評者は凌霜会員に限ります。

編集委員会

